

第 2 回 徳島県広域道路ネットワークに 関する検討委員会

2. 徳島県新広域道路交通ビジョン（素案）の 概要について

1. 徳島県の広域的な道路交通の基本方針

① 広域道路ネットワーク

- ・地域や拠点間連絡の方向性
 - ・（早期整備や渋滞緩和、利便性の向上等強化する路線・道路の選定の方針）
- ・災害時のネットワークの代替機能強化の方向性 等
 - ・（4車線化やダブルネットワーク等強化する路線・道路の選定の方針）

② 交通・防災拠点

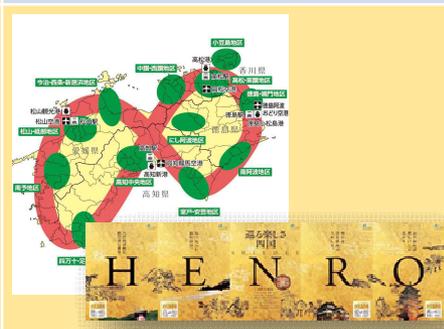
- ・地域の主要な交通拠点に関する、道路と各交通機関の連携強化の方向性
- ・災害時の物資輸送や避難等の主要な防災拠点の機能強化等の方向性 等

③ ICT交通マネジメント

- ・ICT等を活用した道路の情報収集や活用、維持管理の方向性
- ・他の交通とのデータ連携などサービス向上の方向性
- ・主要都市部等における面的なマネジメントの方向性 等

2. 徳島県が目指すべき方向性と道路交通の基本方針

道路交通の基本方針	目指すべき方向性（「未知への挑戦」とくしま行動計画：中期プラン）		
	I. 「安全実感！強靱とくしま」の実現	II. 「多様性実感！共生とくしま」の実現	III. 「魅力実感！輝きとくしま」の実現
	巨大地震や豪雨災害への備えと、エコで持続可能な社会を目指す	誰もが活躍できる社会で、地域産業の維持・強化と革新技術の実装を目指す	インバウンド誘客への戦略的な情報発信を進め、観光地の魅力向上を目指す
①広域道路ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・四国8の字ネットワークの早期整備 ・徳島自動車道の4車線化 ・環状道路整備 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・DMVなど新たな公共交通体系の確立 等 ・分散型国土を実現する南海経済軸へのモーダルシフト 	<ul style="list-style-type: none"> ・空港等へのアクセス強化 ・案内標識のインバウンド対応 ・広域的なサイクルリングネットワークの形成 等
②交通・防災拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅の防災拠点化 ・防災拠点の高台移転 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・モーダル・ミックスの推進 ・物流拠点の利便性向上による産業活性化 ・ユニバーサルデザイン 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・空港への新規路線就航 ・クルーズ船誘致 ・体験型観光の充実 等
③ICT交通マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ETC2.0等を活用した道路情報の分析 ・IoT、AI等を活用した老朽化対策 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・自動運転の実現 ・デマンドシステムの構築 ・DXの実現 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光案内アプリの充実 ・中山間地域での対向システムの活用 等



3. 第1回検討委員会における主な意見

項目	意見概要
高速道路等	ミッシングリンクの解消
	都市部の渋滞緩和
	観光面から、南部への道路整備が必要
	徳島自動車道の4車線化
	高速道路におけるトラックの隊列走行に対応できる高速道路の片側2車線化の整備
道路の機能強化	重要港湾へのアクセス強化（インバウンドにおける渋滞対策）
	山間部の一車線通行になれていない外国（右側走行国）人観光客の危険回避
	かずら橋から剣山へのルートは大型バスの走行が困難であり、観光誘客のための道路整備が必要
	インターチェンジから物流拠点までを重要物流道路として片側2車線の整備が必要
災害時の機能強化（代替性等）	西部と南部を結ぶ通りやすい、災害時にも有効な道路整備
	安全で災害から逃れられる道路整備
	高速移動だけでなく、域内の安全移動への配慮が必要
	中山間地域における豪雨・土砂災害に伴う孤立対策としての道路が重要
拠点	多くの防災施設が備わっている道の駅は、維持管理への支援が必要
	道の駅に多くの防災施設が備わっていることの周知し、より機能強化に繋げる
	港湾関係者が安全に仕事ができることが重要
その他	計画に関し、目標（メリット）を定め点検が必要（1回／年）

4. 徳島県の広域的な道路交通の基本方針

I. 「安全実感！強靱とくしま」を実現するための施策

(1) 広域道路ネットワークの基本方針

- ・「命の道」となる四国横断自動車道や阿南安芸自動車道をはじめとする、防災上重要な拠点間を結ぶ高規格幹線道路や地域高規格道路等の主要幹線道路の早期整備
- ・徳島自動車道における暫定2車線区間の4車線化を促進
- ・徳島市中心部とその周辺地域における環状道路の整備を推進
- ・踏切の除去による道路交通の円滑化等を図るため、徳島市が実施するまちづくりと一体となった鉄道高架事業を推進 等

(2) 交通・防災拠点の基本方針

- ・防災拠点機能を有した道の駅の整備促進
- ・津波による被災が想定される防災拠点について、高台等への移転整備 等

(3) ICT交通マネジメントの基本方針

- ・ETC2.0等のビッグデータを活用した効果的な道路整備の手法検討
- ・IoT、AI等の革新技术の積極的な活用による効率的・効果的な維持管理 等

4. 徳島県の広域的な道路交通の基本方針

II. 「多様性実感！共生とくしま」を実現するための施策

(1) 広域道路ネットワークの基本方針

- ・DMVなど新たな公共交通に関する検討を行い、地域実情に応じた公共交通体系の確立を促進
- ・九州と本州をつなぐ四国ルート（南海経済軸）へのモーダルシフト（フェリーと高速道路）による分散型国土を実現 等

(2) 交通・防災拠点の基本方針

- ・モーダル・ミックスを推進するため、地域の拠点駅・拠点施設を中心とした乗り継ぎネットワークを構築
- ・国際貿易の拠点である「徳島小松島港コンテナターミナル」の利用促進に向けた効果的な物流支援策に取り組むことにより、徳島小松島港の活性化を推進
- ・歩道等の整備や交通安全対策の推進、誰もが利用しやすい公共交通機関等の実現など、ユニバーサルデザインによるまちづくりに向けた取組を実践 等

(3) ICT交通マネジメントの基本方針

- ・地域の交通ネットワークを支援する自動運転やデマンドシステム等の検討
- ・複数の交通事業者の予約から決済まで一括で可能な「MaaS」アプリ等に対応した交通体系の構築を目指すなど、DXの取組を推進 等

4. 徳島県の広域的な道路交通の基本方針

II. 「多様性実感！共生とくしま」を実現するための施策の事例

【事例】津田インター線の整備

四国横断自動車道の整備に合わせて、津田インター線の整備を進めています。



- ・四国横断自動車道へのアクセス向上により、「交通量の分散」が図られ、国道11号や国道55号における主要渋滞箇所での混雑が緩和。
- ・四国横断自動車道と連結することにより、徳島県木材団地として整備された「重要港湾 徳島小松島港(津田地区)」の活性化を支援。
- ・当該地周辺に新たな産業・流通拠点を創出させるなど、ストック効果が最大化。

4. 徳島県の広域的な道路交通の基本方針

Ⅲ. 「魅力実感！輝きとくしま」を実現するための施策

（1）広域道路ネットワークの基本方針

- ・港湾、空港の整備、鉄道等の交通拠点とのアクセスを強化し、観光誘客を加速
- ・国内外からの観光客が安心して楽しく訪問できる案内標識の整備を推進
- ・四国、中国、近畿へと瀬戸内海を一周する「セトイチ」構想の実現など、広域的なサイクリングネットワークの形成によるサイクルツーリズムの普及 等

（2）交通・防災拠点の基本方針

- ・国内外の拠点空港への新規路線就航に向け、効果的なエアポートセールスを展開
- ・広域連携等による積極的な誘致活動や受入態勢の充実強化により、「クルーズ船」の徳島小松島港への寄港を継続・拡大を推進
- ・「体験型観光」を織り交ぜた、長期間滞在できる観光地域づくりを推進 等

（3）ICT交通マネジメントの基本方針

- ・デジタルサイネージやスマホアプリ等による多言語の道・まち案内や、高速道路・道の駅・駐車場・燃料ステーション等における決済のキャッシュレス化を推進
- ・対向車とのすれ違いが困難で、見通しも悪い1車線道路を走行するドライバーの負担を軽減する運転支援システムを検討 等

4. 徳島県の広域的な道路交通の基本方針

Ⅲ. 「魅力実感！輝きとくしま」を実現するための施策の事例

【事例】道の駅を核としたにぎわい交流拠点 ↵

鳴門市では、休憩、情報発信、地域連携の3つの役割をもった複合施設として道の駅「くるくるなると」の整備を進めています。 ↵



出典：鳴門市提供資料 ↵